

**ビルマ民主化のために闘う労働者、市民と連帯**

**「8888行動日」集会、デモに参加**



ビルマ(ミャンマー)の民主化を求める「8888行動日」の集会とデモが8月8日、在日ビルマ人有志により開催され、JR総連から代表が参加しました。

この行動日は、ビルマで民主化運動をしていた学生や市民が1988年8月8日、軍によって弾圧されたことを忘れることなく、民主化を実現するために毎年開催されています。集会では、ビルマの現政権に対し、政治囚の釈放や公平な憲法と法律の制定、少数民族への弾圧をやめることを訴え、日本政府にもビルマの現政権に対して毅然とした対応をするよう求めました。その後参加者は、在日ミャンマー大使館までデモ行進し、大使館前では、ビルマの現政権が真の民主化を実現するよう、参加者たちが抗議の声をあげました。

ビルマの現政権は、国際的な圧力により、アウン・サン・スー・チー氏の自宅軟禁解除や、国政復帰を許可する等、民主化へ動く兆しを見せ始めています。しかし、大統領をはじめとする政府主要ポストは軍人出身者が占めている状況です。

そのような中、昨年まで毎年この抗議行動に共に参加していたビルマ海員組合日本代表のマウン・マウン・ウー氏は、今年7月10日、24年ぶりに母国ビルマへの帰国を果たしました。そして様々な困難の中、ビルマ国内で民主化運動や労働組合の結成のために奔走しています。

JR総連は7月20日～25日、武井委員長と山田国際部長をビルマへ派遣し、マウン氏をはじめとする労働組合結成を目指す労働者や、アウン・サン・スー・チー氏率いる国民民主連盟(NLD)幹部と面会するなど、連帯と支援の取り組みも行いました。

JR総連はこれからもビルマ情勢を注視し、ビルマ民主化のために闘う皆さんとの連帯を強化していきます。